

【課題作成協力】 江守正多（国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長）

【課題】 新型コロナウイルスの感染拡大により、世界の経済活動が停滞したことで、IEA（国際エネルギー機関）の見通しによると、今年の世界の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量は前年比8%（約26億トン）減少すると予測されています。パンデミックがもたらしたCO<sub>2</sub>削減効果を「一時的な現象」で終わらせないためには、以前とは違った新しい社会システムを追求しなければなりません。そこでパンデミックが終息したあとも、CO<sub>2</sub>の排出量を抑えていけるようなシステムの提案と、それを達成・定着に導くコミュニケーションプランを考えてください。

### 【背景と与件】

SDGs 目標 13「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に掲げられるように、気候変動に対する具体的な行動が今、求められています。日本においては、その大切さは叫ばれつつも、気候変動に対する具体的な対策がなかなか広がらない、という課題があります。

国立環境研究所 江守氏の論考によれば、日本では他国と比較して、気候変動に対する各種行動を「社会をアップデートする前向きな機会」としてではなく、「負担」ととらえる割合が圧倒的に大きく、これが日本で対策行動がなかなか広がらない要因の一つとして挙げられています（【参考】を参照）。この「負担意識」とは、気候変動対策のために個人が、時間、手間、注意力、快適さ、金銭など、自身のリソースをいくばくか犠牲にする必要があるとネガティブに考えてしまう、という観念です。

そこで、気候変動に対して行動することは「負担」ではなく、本質的には「機会」であるという「ポジティブ」な気付きを与え、さらには個人人の行動のみで満足するのではなく、社会システムの変化を推進するリーダーシップを支援し、世の中ゴト化する機運を高めていくことが求められています。

### 【ターゲット】

一般生活者および新たな社会的システムを構築するために必要な協力企業や NPO 団体などの民間組織（※具体的な企業名でなく、産業界として記述のこと）

### 【評価基準】

アイデア（システムそのもの、またはシステムを実現するためのコミュニケーション）

クリエイティビティ／オリジナリティ（コミュニケーションプランにおける斬新性）

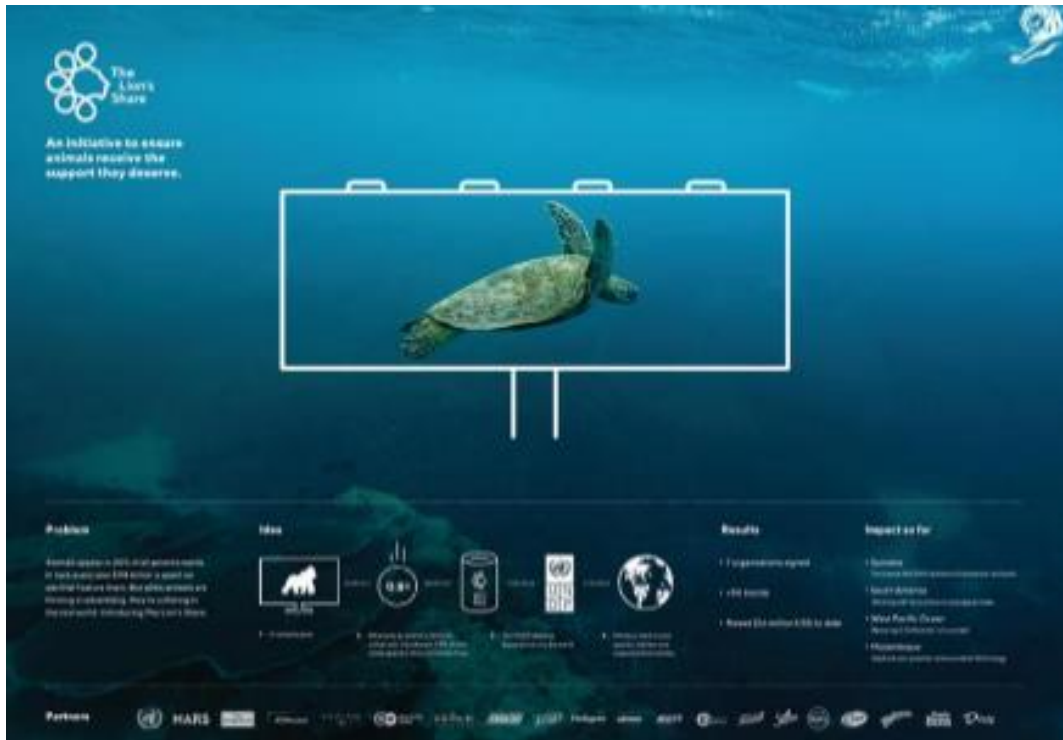
戦略（データドリブンなプランか、ターゲット設定、キーメッセージ）

戦術（チャンネルの選択、実現可能性や再現性、他者を巻き込む拡張性、意識変化から実際の態度変容を促す仕組み、など）

【提出形式】表紙も含め10枚以内のプレゼンテーション用のシート

(PDF形式、A4サイズ、5MB以内)

※サポートマテリアルとしてアイデアを図説/イラストなどを用い、アイデアや戦略を1枚で説明するA4サイズのシートの提出を推奨(PDF、A4サイズ、5MB以内)



【参考】

『なぜ日本人は気候変動問題に無関心なのか?』

江守正多 (国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長)

<https://news.yahoo.co.jp/byline/emoriseita/20200817-00193635/>